鶴ヶ島市の古墳他

No.39号墳（鶴ヶ島市）

ここは稲荷神社

参道を進む

ここにも鳥居がある

正一位
門行樋河大明神

これが社殿

その左手裏に一寸したマウンドがあった/石仏が載っている

これがNo.39号墳

右手から見たところ

社殿を見たところ

少し退いて見たところ

参考ホームページ

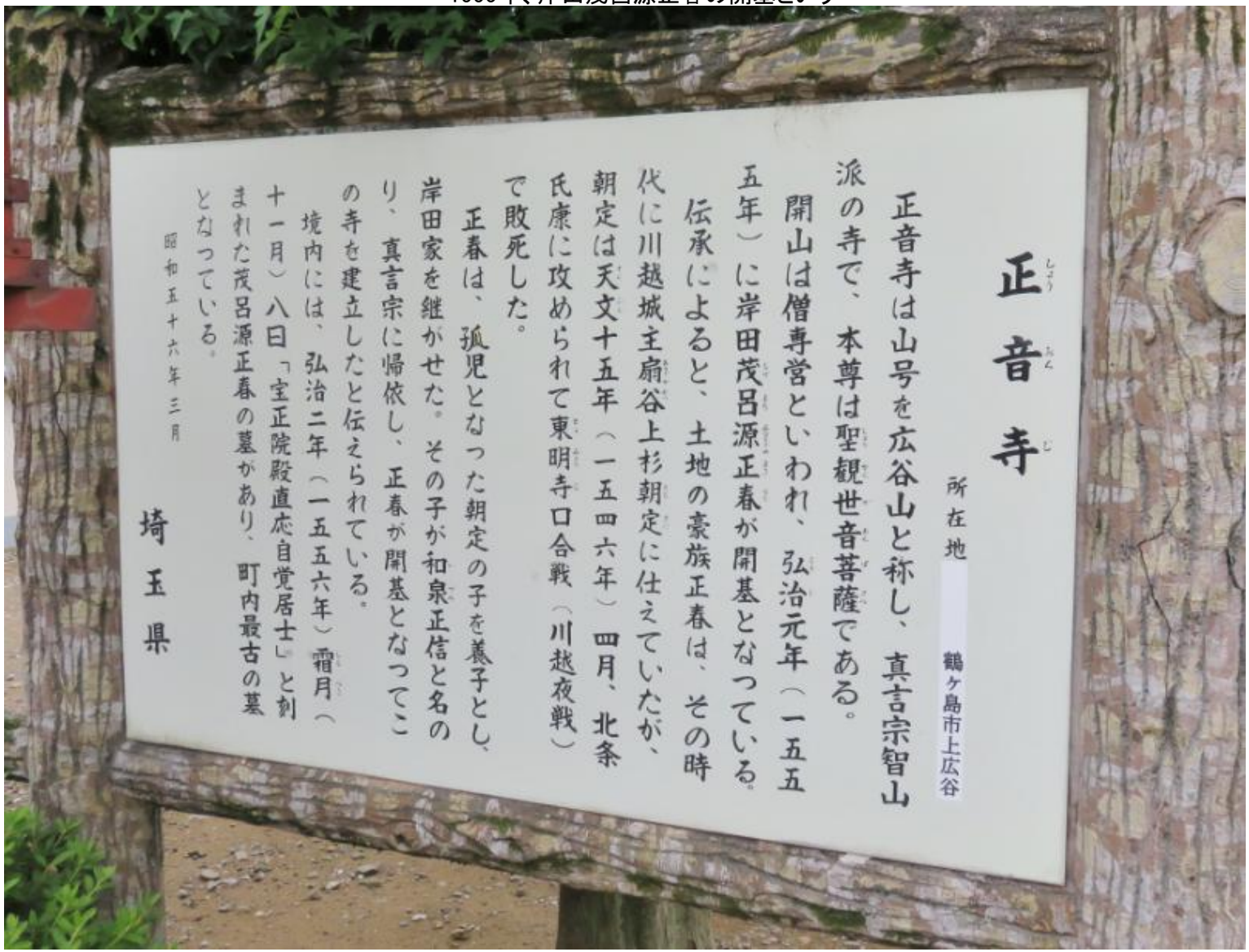
http://sgkohun.world.coocan.jp/archive/index.php/turusima turu39/

No.53号墳（鶴ヶ島市）

ここは正音寺

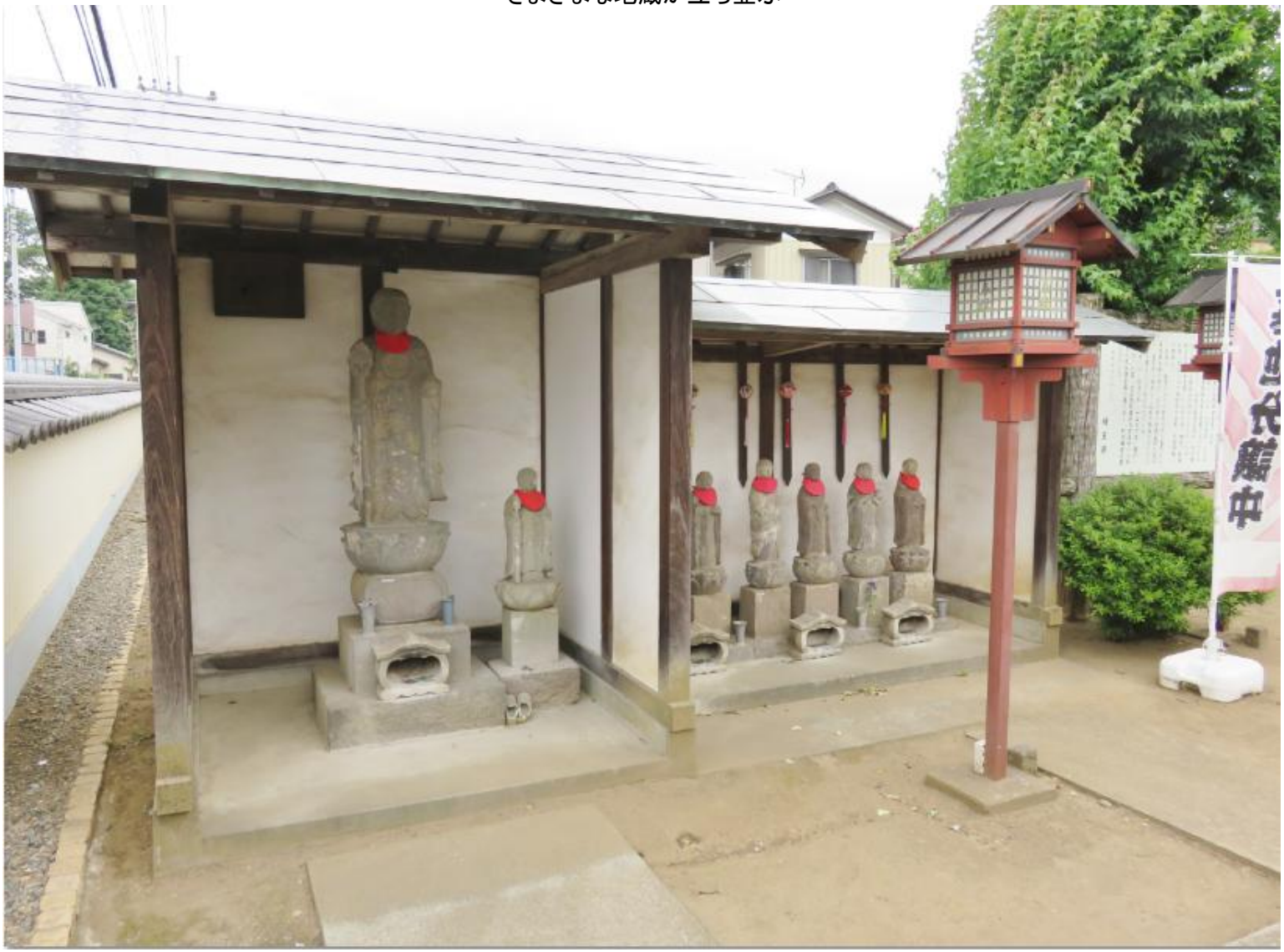
本堂

1555年、岸田茂呂源正春の開基という



献壺

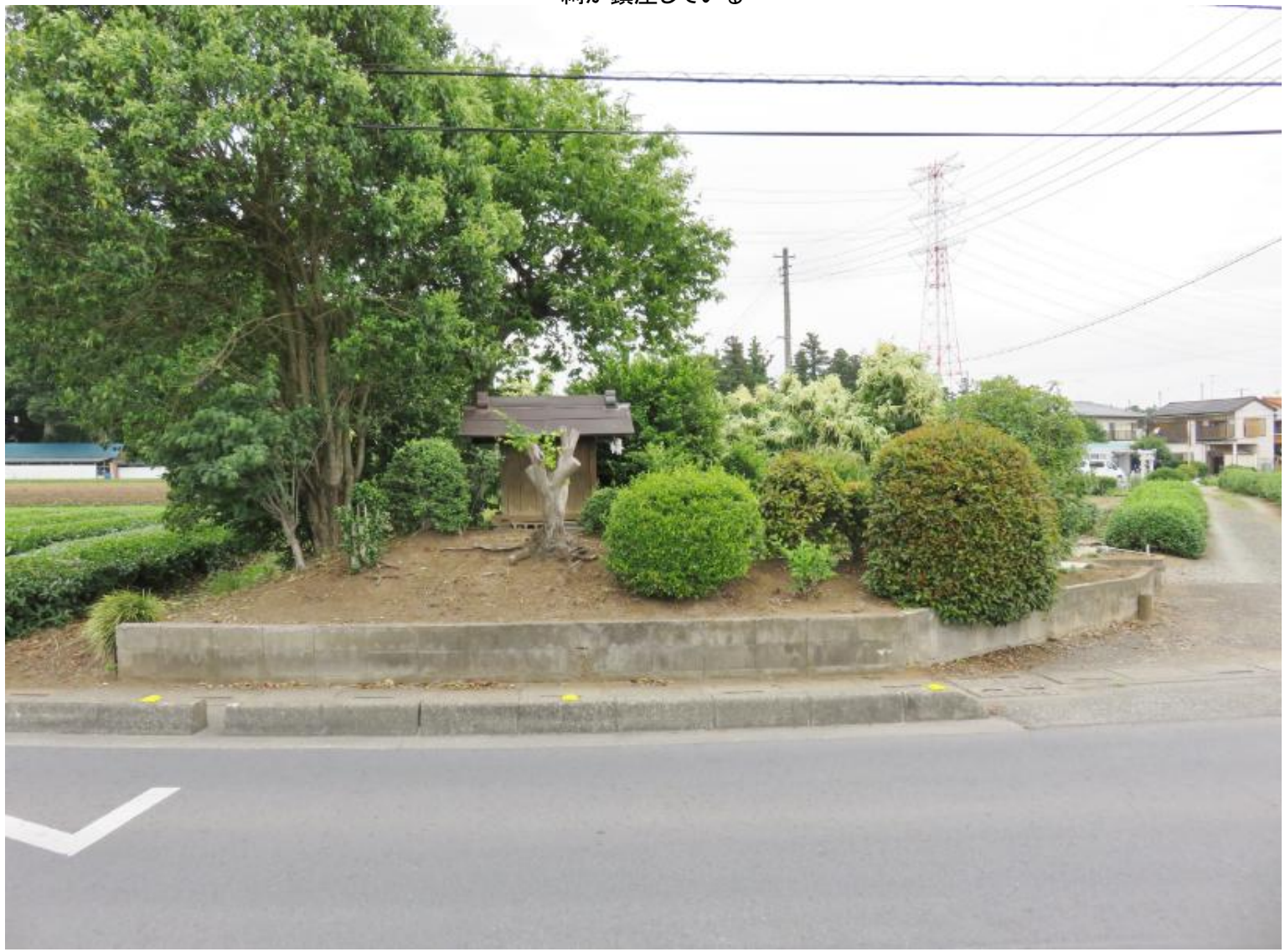
さまざまな地蔵が立ち並ぶ



「鶴ヶ島学校」の跡地でもあるらしい

さて、その正音寺の北側に一寸したマウンドがある

祠が鎮座している



こんな感じ

祠の正面

オーデリック

これがNo.53号墳らしい

参考ホームページ

http://sgkohun.world.coocan.jp/archive/index.php/turusima turu53/

愛宕塚古墳

ここを入って行く/手前に標柱が立っている

高福寺跡入口と記されている

左手にさまざまな地蔵が並ぶ

その後に一寸したマウンドがあり、ここにも石仏が祀られている

こんな感じ

背後から見たところ/これが愛宕塚古墳のようだ

こちらには説明坂が立っている

高倉高福寺不動明王画像

市指定有形文化財（絵画）（昭和六十一年一月二十三日指定）

高倉高福寺跡の不動堂には古来より不動明王の掛け軸が秘蔵されていた。

これは、縦二尺五寸（約七十六センチメートル）、横一尺二寸七分（約三十八センチメートル）で、台紙の和紙に絹布が張られており、その上に金泥や顔料で〝右脇に制多迦童子、左脇に矜羯羅童子を従え、紅蓮の炎を背にした不動明王像〟が描かれている。

かなり傷みは進んでいるが、古色蒼然とし、一見してその年代の古さを感じさせる逸品である。

かつて高福寺は不慮の災いに遭い、享保五年（一七二〇）に再建され、後年廃寺となり、その古材で不動堂が建設された。その不動堂の茅葺き屋根の天井裏に、黒くなった桐の箱に入れられて、この不動明王の掛け軸は保存されていたということである。

この不動明王の開軸は長く禁忌（タブー）とされ、「不動を見ると目がつぶれる」などと伝えられてきたため、めったに開軸する機会もなく、そのまま保存されてきた。

この掛け軸の製作年代は鎌倉時代にまでさかのぼり、部分的には平安時代の技法も感じとれる。県内でも最も古いものの一つで、作品としても極めて価値の高いものである。

なお、この画像は昭和五十九年九月、当時町教育委員会が高福寺の巻物を調査した時に発見したもので、画像の傷みがたいへんひどかったために専門家の手によって修理し額装にして保存している。

※制多迦童子＝不動明王に侍する八大童子の第八番目
矜羯羅童子＝不動明王に侍する八大童子の第七番目

平成六年六月三十日

鶴ケ島市教育委員会

参考ホームページ

http://sgkohun.world.coocan.jp/archive/index.php/turusima_atago/

No.40号墳、No.41号墳

ここは日枝神社

高倉朝臣がここで勧請したという

日枝神社

日枝神社の祭神は大山咋神（おおやまくいのかみ）ほか四神であり、古くは山王（さんのう）権現（ごんげん）といった。

滋賀県大津市の日吉大社は、全国三千八百余の日吉・日枝・山王神社の総本宮であり、当神社についても「昔、高倉朝臣が近江国に住んで、同国の日吉の神を信仰していたが、当村に勧請した」といわれている。

例祭日は、毎年十一月二日・三日で、当日は豊作感謝と疫病退散祈願のための獅子舞が奉納される。

この獅子舞は江戸中期から始まり、外秩父地方の流れをくむもので、曲目は十五曲が残っている。

地元では、この獅子舞を後世に伝えるため、昭和三十九年に保存会を結成し、後継者の育成に力を注いでいる。

平成二十七年三月
鶴ヶ島市

高倉の獅子舞

市指定無形文化財（昭和四十九年十一月一日指定）

日枝神社の秋祭りに高倉の獅子舞が行われる。この獅子舞は遠い国から訪れた強力な神が、村人の幸福を守るために悪霊、悪疫を退散させてくれるといわれている行事で、村人にとっては国家安泰、天下泰平、五穀豊饒などを祈る行事でもある。

高倉の獅子舞は江戸時代から引き継がれている伝統ある行事で、昭和四十九年に、最初に鶴ケ島市の文化財に指定された。

その構成は、万灯、天狗、花笠、はいおい（軍配を持って獅子を先導する）、前獅子（男獅子）、中獅子（女獅子）、後獅子（男獅子）などで、ほら貝を合図に数人の笛吹きと歌うたいに合わせて登場する。

花笠は女装した〝ささらっこ〟と呼ばれる童子四人が花笠をかぶり、〝ささら〟という楽器を奏でながら舞に参加するので、特に〝ささら獅子〟とも呼ばれている。

市内で数箇所あった獅子舞も、現在は高倉の獅子舞が唯一のものとなってしまい、たいへん貴重な伝統芸能である。

平成六年六月三十日

鶴ケ島市教育委員会

さて、境内に進む

お約束の再利用材

右手を見るとマウンドがある/これがNo.40号墳/西側から見たところ

墳頂に建つ石造物

北側から見たところ

何んとなく周堀のような感じ

南東側から見たところ

さて、これが社殿

日枝神社

その左手を見るとこんなマウンドに祠が載っている

これがNo.41号墳らしい

背後から見たところ

左手前が拝殿、右奥が本殿

参考ホームページ

http://sgkohun.world.coocan.jp/archive/index.php/turusima_turu40/

庚申塔と罵頭尊縁起（鶴ヶ島市）

庚申塔と馬頭尊縁起

中国古代の道教に、千支の庚申の夜に人が眠ると体の中の「三尸(さんし)虫」がその人の日頃の罪を上帝に訴えて、命を短くするとの説があり、日本の庚申信仰はここから来ていると言われ、後に庚申の日には徹夜して過ごすという庚申講も行われた。

江戸時代までは、庚申の日には炒豆を食べ、女は針仕事はしなかった。

庚申塔は二百六十年前に建立され、見まい、聞くまい、話すまいがあるという話題の場所でもあり、三面六臂の相をした馬頭観音菩薩と、中央の手が合掌、右手に剣、左手に宝殊、下の右手に矢、左手に弓を持った青面金剛菩薩とが佇んでいる。

青面金剛菩薩の彫られている庚申塔の台座には、右に目かくしをした猿、中央に耳かくしをした猿、左に口をかくした猿がいる。この三猿の姿を見ざる、聞かざる、話さざるとか、見まい、聞くまい、話すまいと言って来たのである。尊像は邪鬼の上に立っており、両端には向き合った鶏、右メス、左オスが小さく彫られている。

庚申塔は路傍に祀られ、道祖神の性格も持っており、病気・商売繁盛・家内安全の願いをこめ、才道木の人達だけでの庚申日待も戦時に休止になるまで行われていた。

これと並んで二百四十年前に建立された馬頭観音は脚折村の馬の病気回復と安全を祈願したものであろう。

平成二十九年三月
才道木庚申塔保存会

川崎平右衛門定孝陣屋跡（鶴ヶ島市）

このエリアが川崎平右衛門定孝陣屋跡/復興土塁が巡る/北側から見たところ

江戸時代中期に代官として武蔵野新田開発を担った人物の陣屋跡という

鶴ケ島市指定史跡

武州三角原
川崎平右衛門定孝陣屋跡

鶴ケ島市大字高倉一二三三番地一

平成八年三月二十一日指定

川崎平右衛門定孝は元禄七年（一六九四）武蔵国多摩郡押立村（現在の府中市）の名主の家に生まれました。元々農業に従事し、荒地の開墾や用水・溜池の改善など各種土木事業を行ったり、私財を投じて窮民を救ったこともあり、篤農家として村民からは厚い信頼を受けていました。坂巻されて新田世話役、のちに代官となり武蔵野新田開発を成功に導きました。この三角原は新田開発に当たり、彼が拠点として陣屋を設けたところです。

享保七年（一七二二）徳川吉宗による新田開発令が出て、武蔵野台地の全面的な開拓が進められましたが、これは多数の新田村をつくり、石高にして十一万二千石（一石は約一八〇リットル）の増収を得ようとする計画でした。

開発当初の出百姓（入植者）の困窮ははなはだしく、また大凶作にも見まわれ、元文四年（一七三九）には新田の総家数一三二七戸のうち一六一戸が潰れ百姓（破産した農家）となり、どうにか生活していけるものはわずか九戸であったといいます。幕府は武士が指導した新田開発が失敗した苦い経験から農民出身の平右衛門を南北武蔵野新田世話役に登用し、農民の実情にあった新田開発事業を推進させました。

平右衛門と農民の努力の結果、多摩郡・高麗郡・入間郡・新座郡にわたって五百町歩（約五〇〇ヘクタール）の新田がみごとに開墾され、やがて寛保三年（一七四三）平右衛門は代官に任せられました。

その後、明和四年（一七六七）、平右衛門は幕府勘定所の検査をする勘定吟味役兼諸国銀山奉行となりましたが、同年六月七四才で生涯を終えました。

ここにある小祠は、寛政十年（一七九八）新田の農民達が平右衛門の徳を追慕して建てたもので、正面に川崎大明神と刻み込まれています。

陣屋は平右衛門が美濃に任地替になったため建物は取り払われましたが、土塁や堀は昭和十六年日本農地開発営団の開墾が始まるまで残っており、現在の土塁はその後に作られたものです。

平成五年に陣屋跡の確認調査を実施したところ、位置は現在のものと一部分で重なりながらも、西側を走る日光街道杉並木と並行し、堀跡等は発見され陣屋跡の規模からそれまで考えられていたものより約三倍（東西五三・五メートル、南北五五メートル）の大きさがあることがわかりました。

平成十一年三月

鶴ケ島市教育委員会

陣屋跡のエリア

西側から見たところ/右手前方に石祠が見える

参考ホームページ

http://ckk12850.exblog.jp/5317765/

http://www43.tok2.com/home/yo1029/photo11032.html

http://ashigarutai.com/shiro006_sankakubara.html

http://heiemon.org/siseki.php?area=99

http://gi001.blog20.fc2.com/blog-entry-355.html

松駅
日枝神社
鶴ケ島第一小
下新田
子ノ神東
鶴ケ島中
脚折
自動車道
ドラッグセイムス
鶴ケ島市役所
鶴ケ島署
藤金
鶴ケ島清風高
鶴ケ島
JCT
高徳神社
高倉天神
高倉
三ツ木